

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700874		
法人名	株式会社南阿蘇ケアサービス		
事業所名	グループホームみなみ阿蘇		
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字久石2721-2		
自己評価作成日	平成23年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4372700874&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成23年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の中にあり、利用者の方々がいつも目にしていた阿蘇五岳を一望できる恵まれた環境の中にホームがあります。自然の移ろいを眺めたり、地域で採れる野菜を使った田舎料理を主に、家庭的な雰囲気の中暮らして頂いています。職員の離職率も少なく、利用者の方と長いおつきあいで、家族のようにアットホームに暮らして頂いています。
特に今年度は職員のスキルアップを図る為に外部、内部研修を多く取り入れ、学びの機会を持ち、介護技術はもとより、接遇マナーに力を入れサービスの質の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフと管理者の意識の共有と、理想を実現化させようという意欲に富んだ事業所。南阿蘇の大自然が目の前に広がり、気持ち安らぐ風景に包まれた暮らしは、入居者の介護度は様々でもそれぞれに表情が明るく、共に昼食を楽しむ表情は平和そのものを感じさせる。利用者の生活を事業所内で完結させず、地域内の特別養護老人ホームでの特殊浴や、公共温泉の利用、買い物・お花見など、地域資源を上手に活用しながら生活の場を広げている。また、東北震災後はスタッフ4名がボランティアで岩手県のグループホーム協会へ支援に駆けつけるなど、広域な活動を行っており、自事業所の介護対応でも、入居者から「私たちは戦後を乗り越えて来た、これからは貴方たちが日本を支えて欲しい」という素晴らしい言葉を引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り後に出勤者全員で読み上げ、理念を共有し日々の業務にあたっている。	理念は「健康で文化的な生活」の実現。入居者の年を重ねて軋みが出始めた体も、それぞれ異なる状況の違いを認め、処遇の根底に「個人の尊重」を置いた介護業務が図られている。入居者の健康・文化的な生活の支援そのものが「理念」の実践であることを共通の認識としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の道掃除や、運動会、敬老会等に出るだけ参加している。又男性職員は消防団の活動にも積極的に参加している。	男性職員は地域消防団に参加し、阿蘇の野焼きにも出勤。入居者は「どうだった?」「気を付けて」と檄を飛ばし、気持ちで地域活動に参入。また、ホーム主催の夏祭りには地元住民の予想外に多い参加を得、食事が足りなくなるといふハプニングも分け合う対応で楽しくクリア。開設11年の確実な関わり合いが形成されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生のサマーキャンプ、福祉体験学習の受け入れを行い、認知症について理解、学習して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、行事、職員の参加した研修の報告書についても報告し、そこで出た意見、助言を生かしている。	運営推進会議では年度計画・報告が行われ、安全管理の徹底・リスク管理・プライバシーや個人情報の保護、権利擁護について報告している。2か月に一回会議開催となっているが、出された意見や助言などの結果が、議事録で検証できるシステムが構築されると更に良いと思われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、ホームの現状等を報告している。村からもいろいろな情報や助言をいただいている。	3月11日の東日本大震災を受け、ホームから2名づつ1週間を2回、岩手県釜石市のグループホーム協会へボランティア支援で訪問。南阿蘇村の広報誌「南阿蘇」7月号に東日本大震災・被災地支援の様子が紹介されている。行政への手続きや打ち合わせも責任者のみが出席するのではなく、職員が率先して出掛け情報収集に対応している。被災地支援に職員が出掛ける際は「私たちは戦争を乗り越えて来た。貴方達がこれからの日本を支えて欲しい」と、入居者から励まされるなど、行政支援が入居者への気持ち支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	色々などころからの情報(新聞、ニュース等)も共有し、話し合い、お互い注意しあいながら業務に取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止には特に注意し、玄関、南・北を繋ぐ渡り廊下、全てに施錠なし。出入りを知らせるチャイムと、職員の見守りが「無断外出」を保護。「徘徊」という言葉は使わず「自主散歩」と銘打って自由に行動できる環境作りが行なわれており、職員へのメンタルヘルスにも注意が払われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修に参加した職員は研修報告を行い、全職員が学習できるようにしている。 新聞ニュースなどで、取り上げられると、職員同士話し合い自分たちのケアについて考える。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、社内の勉強会で職員へ報告したり、資料を配布している。実際、制度を使われている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時ターミナル・鍵の使用・センサーの使用・退去についてなど、具体的に説明し、理解、同意を得ている。介護保険改正時や契約の変更時、文書を配布したり、家族会において十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会の家族代表の方から意見をいただいたり、面会時や、ケアプラン説明時やお誕生会の来初自に話す機会を設け、その意見などを職員に伝えている。	入居者の生活歴・価値観の違いは時として「うちわもめ」になることもあるが、「うち(家)のことだから仕方ない」と捉え、其々の思いを否定せず、個別の想いを大切に対応している。平均介護度は南棟が3.7、北棟が4.1で、家族からの要望や意見はあまり聞かれないが、イベント開催時や面会に訪問された際等、極力意見を聞き出し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が毎朝の申し送りに参加し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。月一回の職員会議時に「聞きたい話したい」ノートに提案などを書き話し合っている。	業務で仕事がこなせるだけでなく、「人を愛せる人」が職員採用の最低基本としている。特養など、他施設での勤務経験を持つ職員は、他事業所の良い事例を紹介・アドバイスするなど反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員それぞれの専門職による知識や情報を他の職員へ伝達してもらうことでプロ意識を持ち働く意欲へとつなげてもらい、それを給与水準に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は研修の充実を図り全職員が研修に参加することで、介護に対する振り返りが出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県主催の研修会等に積極的に参加し他施設の情報を知る機会を設けたり他施設の見学を新人の職員といき同業者と交流する機会を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される際は、本人はもとより家族や、ケアマネジャー、他事業所からも情報を集めスムーズに安心し入居して頂けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族から情報、要望等集める過程で信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーや他事業所とも連絡を取り合いながらその人に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方と、協力しながら料理作りや、洗濯物たたみ等行い利用者の方の持っている力を生かせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加呼びかけや、病院受診時の付添等家族と協力し行い利用者の方が安心して生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力しながら自宅や思い出の場所に出かけたり、古くからの友人や知人の方の面会があれば、居室やホールでゆっくりできるよう努めている。	ホームの裏手にある土地は利用者が元気に時に作物を作っていたが、今は、利用者家族が耕作しており、じゃが芋・ピーナツ・里芋などを収穫している。収穫物ではピザ豆腐を作ったり、食事に利用しており、畑で一仕事終えた家族が入居者を訪問するなど、家族との何気ない関わりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やホールでもゆっくり過ごせるような環境作りに努め、利用者同士が触れ合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居などがあれば面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活習慣を把握し継続できるよう支援し、職員間でも話し合いながら、利用者の方の思いに近づけるよう努力する。	ホームへの入所時、利用者宅を訪問。それまでの生活状態を把握し、古い写真から昔の経験や思い出を引き出す工夫を実施。ひとつの思い出しから、またひとつの引出しが開くように、根気よく対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活習慣は本人、家族から情報を収集し、他事業所からもサービス提供時の状況等を聞き、これまでの生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のペースに合わせ、落ち着ける雰囲気作りに努め、日々の申し送りで体調を把握している。一人で過ごす時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の時に職員から、情報、意見を聞き、家族からも日々の状況報告を行う際に意見をもらい計画を作成している。	寝たきりや胃瘻の入居者も、居室で孤立することのない様に、食事時には居間に移動介助し、特殊浴が必要な入居者には職員が2名付き添って、白水温泉の特養「水生苑」へ毎週入浴訪問を実施するなど、利用者がより良く暮らすことができるように介護計画が練られている。利用者の昼間の様子から「夜はどのような状況なのか知りたい」と、夜勤を申し出るスタッフがいるなど、職員間の意欲も高く、チーム全体で出し合うアイデアや計画が採用されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に残し申し送ることを「申し送りノート」や「なんでもノート」を活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスとも協力しながら、利用者が行き来でき、入居された後も知人の方と会うことができるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季折々の行事、花見、植木市、紅葉狩り、干し柿づくり、切干大根作りなど、地域の方の協力を得ながら生活に楽しみが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にこれまでのかかりつけ医で継続できるようにしている。変更の必要がある場合は本人家族へ十分説明し納得して頂いたうえで変更している。	緊急時は隣接する医院の他、従来からのかかりつけ医の利用や、地域の内科・精神科・歯科・総合病院を利用し、定期診療・通院などで健康の維持管理に対応している。また、入れ歯の手入れやメンテナンスを図り、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな異常がある場合でも看護師と連絡し対応している急を要する場合は別ユニットの看護師へもお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時には交代で面会に行き、看護師や医師から情報を聞きホーム職員へも伝えている。治療がスムーズに進めるよう病院側へも情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでもできること、出来ないことを把握し、家族と主治医とも話し合いながら統一したケアを行い、その人らしい生活、その人らしい最後を家族と協力し行っている。	「どのような最期を迎えたいか」をテーマに、全員で考える機会を作り、「私の死様を見て勉強しなさい」と言った利用者も居られたとか・・・。家族が2か月近く泊まり込み看取られた事例や、病院からホームに戻り「自宅に帰りたい」の要望を受け、看護師2人が付き添って自宅での看取りを行った事例等、5人を看取った経験を持ち、グループホーム協会の勉強会でも発表している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自主勉強会に消防署の方を講師に迎えAEDの使い方等学んでいる、外部研修や看護師からのその場その場での指示もあっている。又、応急手当の勉強会にも参加し知識を深める努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、地元消防団、消防署、民生委員の方にも参加して頂き、昼夜間を想定した避難訓練を行っている。他施設の災害対策も参考にしている。	南阿蘇の高台に位置しており、周辺状況の把握がしやすい状況で、地域住民からの関心も高く、年2回の避難訓練には消防署の協力と、地元消防団・民生委員の協力を得て避難訓練を実施。事業所から外への避難方法を入居者・職員が訓練し、火災等の緊迫感を体験している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針にも、人生の先輩として敬愛し、まずと唱って常に職員は念頭に置き対応している。排泄に関しても「ハルン」「おはな」と言葉を変えている。トイレ誘導時の声掛けも他利用者の配慮している。	会話のキャッチボールは難しいが、「先生これはどうしましょう?」「〇〇さんこれでいいでしょうか?」と、若い頃小学校の先生だった方や商店の女将さんだった方など、それぞれを大切に呼びかけが聴かれた。また、口からの食事が難しい入居者には誇りを大切にされた対応が配慮されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から思いや希望を耳にしたら希望に添えるよう努めている。利用者の方が自分で選択できる機会を提供するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者の方の生活を優先に考え、利用者のペースに合わせ、自身の意思が活かされるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマを希望される方は、行きつけの美容室まで送迎したり、愛着のあるアクセサリをいつも身に着けられている。誕生会等では女性職員が化粧の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める際も、利用者の方と話し合い決定している。野菜の皮むきや茶碗拭きの手伝いを職員と一緒にして頂いている。利用者のレベル低下に伴ない難しくなっていることもある。	食事は入居者とスタッフが同じテーブルに付き、同じ物を「おいしいネ」と会話しながら楽しんでいる。以前は、冷蔵庫を確認して買い物に行き献立を決めていたが、現在、1か月のメニューを栄養士が対応し、材料も搬入して貰う対応となり、その分ゆとりが生まれ、メニューの変化・品数の増加や栄養バランス対応も取れ、食事の楽しみが増えている。経管栄養の対応が見られる反面、外食を楽しむ機会を作ったり、パン屋さんへ買い物に行くなど、両者の希望に合わせた対応が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の減ってきた利用者はチェック表に記入し申し送り、本人の好まれる食材を提供するよう努めている。水分補給もお茶だけでなくアップルティーやコーヒーなども提供し十分な水分補給が出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前には口腔体操を行い、食後は口腔ケアを行っている。毎週歯科の往診をお願いし口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、おむつの使用を最小限にするよう努め、失禁ある際の不快感、蒸れを防ぐよう努力している。尿便意のサインを見逃さない様気を付けてトイレでの排泄が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや植物繊維を摂って頂き散歩などで適度な運動も取り入れている。下剤の調整もチェック表に記入し調整し無理のない排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を聞き、一日おきや2日おきの等の対応をしている。入浴剤で入浴を楽しんでいただけるよう努め、利用者の方に合わせてシャワーチェアを導入し安心安全に入浴できるよう支援している。	日常的な入浴は利用者の希望を第一に配慮して対応。時には休みの職員が「温泉へ行く」とホームを訪問。希望する利用者を温泉へ同行することもあるという。職員にとってホームの入居者は自分の親のような存在で、共に楽しむ試みも実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣、体調を考慮しながら休息昼寝を取り入れている。日中の運動と休息と夜間の睡眠の状況は申し送り時に話し合いバランスを考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの薬の内容を職員に配り変更あるときはその都度申し送っている。確実な服薬確認のため手渡しし、飲み込まれるまで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内だけの生活とならないよう、温泉や外食の行事を行っている。定期的な家族との外出も協力しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との協力の元、自宅への外出、外泊、墓参りをおこなっている。温泉や外出を取り入れ「ここに行きたい」という希望に添えるよう努力している。	南阿蘇の大自然に囲まれており、四季の移り変わりを毎日眺めているものの、外へ出ることの楽しみは別もので、周辺への散歩のみならず、西原の「萌の里」や蘇陽町の「そよかぜパーク」までの遠出も実施。職員は「自分たちも楽しんでお年寄りにも楽しんで貰いたい」と、楽しみ探しに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にジュースやアイスを自分の財布より支払う機会がある。管理が難しい方はホームでお預かりし希望時には支払いの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方の精神的な支援を図るために家族にお願いしたり、奥様に電話をかけたなどの希望があればすぐ対応している。手紙が届いたら代読し居室に貼っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節の草花の飾りや利用者の方と一緒に作った折り紙を飾っている。お香を取り入れ、リラックスのできる空間づくりに努めている。食堂から見える阿蘇の山々も、四季を感じさせる。	天井が高く、上部に明り取りが設計されており、自然で優しい明るさが保たれている。車椅子利用者が多いが、寛ぐ時間や食事時はソファや椅子に移乗し、大きく開いた開口部から南郷谷を一望に眺め四季を感じられる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の相性も考えながら、座る位置も考えている。ソファも2か所設置し思い思いに過ごせるよう工夫している。一人での時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていたタンスや日用品を使って頂いている。お位牌をもってこられている利用者の方には、仏飯の提供をしている。好みの歌手のポスターも飾り、一人一人違った居室づくりに努めている。	一際目立つ仏壇に、若い頃のご主人の写真と自分の写真が大きく飾られている居室や、小さなお位牌を棚に飾り、花や御仏飯を添えた部屋、大ファンだという歌手の写真、関取の写真が飾られた部屋など、それぞれに異なった居室が整理されている。又、ベッドも介護度に合わせ多様に準備され、自分らしい時間が過ごせるように支援されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口やトイレに目印を付けている。廊下の途中に長椅子を置き、休憩のできるよう工夫している。職員と一緒にゴミ出し、新聞を取り入れて頂いたり、役割を持って頂き、そのお礼としてカフェのコーヒー券を渡し、楽しみとなるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700874		
法人名	株式会社南阿蘇ケアサービス		
事業所名	グループホームみなみ阿蘇		
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字久石2721-2		
自己評価作成日	平成23年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4372700874&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成23年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の中にあり、利用者の方々がいつも目にしていた阿蘇五岳を一望できる恵まれた環境の中にホームがあります。自然の移ろいを眺めたり、地域で採れる野菜を使った田舎料理を主に、家庭的な雰囲気の中暮らして頂いています。職員の離職率も少なく、利用者の方と長いおつきあいで、家族のようにアットホームに暮らして頂いています。
特に今年度は職員のスキルアップを図る為、外部、内部研修を多く取り入れ、学びの機会を多く持ち、介護技術はもとより接遇マナーに力を入れサービスの質の向上を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、運営方針を見やすい場所に掲示している。また朝礼時、運営方針を唱えることで気を引き締め一日の始まりとしている。会議や勉強会においても理念に基づいた介護を実践できるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやカフェ、コンサート等のイベントで交流が出来ている。地区の清掃活動にも積極的に参加している。ゴミステーションがホーム内にあり、あいさつを交わしたり、交流が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習の受け入れや中学生の職場体験の受け入れを行い、認知症の方への理解や関わり方を体験して頂くことで人材育成の一躍を担っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、活動予定、ヒヤリハット、事故報告を随時報告している 貴重な意見交換を行い、サービスやケアの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	併設のデイサービス、訪問介護事業所と連携して、村の担当者と連携が取れており入居者を取り巻く担当者との連携がスムーズに行えるよう心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて会議や勉強会で話し合うことがあり、外部の研修にも積極的に参加、入居者に与える影響についても理解しケアにあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会で学び会議でも事例検討し、適切なケアについて職員間で話し合いの場を持っている職場のストレス軽減のため、話を聞いたり職場環境を整えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、社内の勉強会で職員へ報告したり、資料を配布している。実際、制度を利用されている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時ターミナル・鍵の使用・センサーの使用・退去についてなど、具体的に説明し、理解、同意を得ている。介護保険改正時や契約の変更時、文書を配布したり、家族会において十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員の家族代表の方から意見をいただいたり、面会時やケアプラン説明時。またお誕生会の来所時にゆっくり話す機会を設け、その意見などを職員に伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が毎朝の申し送りに参加し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。昼食を共にする中で色々な雰囲気や働く雰囲気作りを努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員それぞれの専門職による知識や情報を他の職員へ伝達してもらうことでプロ意識を持ち働く意欲へとつなげてもらい、それを給与水準に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は研修の充実を図り全職員が研修に参加することで、介護に対する振り返りが出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県主催の研修会等に積極的に参加し他施設の情報を知る機会を設けたり他施設の見学を新人の職員といき同業者と交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をじっくり聞く。どのような気持ち・どんな思いをお持ちか・どう暮らしたい…等、また入所前の暮らしや家族の方からも情報を頂き、信頼関係が早く築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の困っていたことや、今後の事等、話を引き出す努力を行い、また家族の思いも傾聴し、気軽に話せる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インタビュー、アセスメントをもとに、家族利用者の今必要なことを考えサービスへと繋げている。好きな食べ物、楽しめる事、近隣の仲の良かった人等、気軽に話せる関係、雰囲気、取り巻く環境を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気で日常的な会話や家事の手伝いをして頂きながら、やりがいを感じたり、楽しい雰囲気を味わって頂いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況や異変をこまめに連絡し家族の話も聞きながら、ともに支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイや南ホームの馴染みの方との交流に出かけたり、来ていただくことで今までの関係を大事にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や関わりによつての表情や態度を観察しながら居心地の良い人、良い場所の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの利用者や職員で入院先や入所先に出向いたりして、お話を聞いたりする機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、インテークで意向の把握に努め、ケース記録にも「 」で本人の言葉として記録してもらいサービスに活かす努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同じ地域の方、併設のデイや南ホームへお互いに尋ねあう関係づくりに努めている。利用者の方や家族に昔の話をたくさんお聞きし、今までの生活を切り離さない生活の継続が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録で職員間で情報の共有が行えている。問題点があれば会議でケース検討し問題解決にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援経過において、家族、主治医の意見を聞いたり、職員に個別で担当の利用者へのサービス計画の実施が出来ているか、モニタリングしてもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースには「 」で本人の言葉としかくよう心掛け、表情しぐさ等気づきを書いてもらいプランの見直しの参考としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科、精神科、歯科、理学療法士のマッサージ、理美容とニーズに応じサービスの提供を支援して頂いている。皮膚科、整形受診付添い等必要に応じ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のぶどう狩り、リンゴ狩り、イチゴ狩りに、出かけたり買い物やお祭りに参加する機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関及び専門医の往診、受診により状態に応じた医療を受けて頂いている。必要に応じ、大津、菊陽の整形、皮膚科受診に同行、家族の協力もあり付添の支援もして頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや情報は個人記録に記載し、朝の申し送り時に情報の共有を行っている。又、看護師の判断で受診につなげたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリーや電話、面会において情報交換し医療機関とのスムーズな連携が行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプラン説明時や相談を受けた時に家族、本人の意向を聞き、主治医の協力も仰ぎ、家族、医療、ホームで支え、その方らしい看取りの方向性を考えて行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で学ぶ機会があり、一般的な救急法についての知識がある。個人個人で急変時の対応、取り決めの手順を看護師より指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署や消防団の協力を得て避難訓練を行っている。日中、夜間想定で、交代で訓練し、誰でも同じ対応が出来るよう訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方を人生の先輩として、常に敬愛する気持ちを大切にしています。トイレやお風呂の声掛けも配慮した声掛けや気配りを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が自分の気持ちを表現できる、環境を整えている。自分で洋服を選んだり、食べたいものが気軽に言える親しい関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に配慮しながら、気候の良い時に、気分に応じドライブや果実狩り等、単調になりがちな毎日の中、楽しみな機会を作るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの洋服を選んで頂いたり、スカーフ、アクセサリーを身に着け、自分らしいおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日食べたい食事を聞いたり、準備の時には野菜を切って頂いて、出来るところを手伝って頂いている。(茶碗洗い、茶碗拭きなど)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の観察の必要な方には水分量、食事摂取量を記入し、状態の把握に努めています。10月より栄養士のたてた献立で、より栄養バランスのとれた食事を提供していきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を学んでおり、食後は義歯洗浄、歯磨きをお手伝いしています。食事前の口腔体操、嚥下指導でむせや誤嚥予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、排泄のパターンを知り、可能な限り布パンツ使用、また早目の交換を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事、牛乳や寒天、サツマイモなど食べる物で便秘解消を図り、腸を動かすこと(マッサージ、運動)を取り入れている。排便困難な方には緩下剤の調整をして便秘の不快感を除く努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の方の入りたい日、時間を尊重している。入りたくないと言われる方に対しても、無理強いせず、トイレ後や気分転換図った後に、お誘いして入らせて頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動を取り入れ、夜間安眠できるように努めており生活リズムやパターンに応じて声掛け、入眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は申し送りノートを活用し情報を共有している。処方箋は専用ファイルがあり何時でも確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内でのレクリエーションを勧めたりホームでのイベントやカフェに行き、気分転換を図っている。今までしてこられた家事など出来る範囲で手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや果実狩り、買い物、温泉等の外出支援を行っている。自宅への外出、外泊の送迎、移乗などにも職員が同行して家族の負担軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は所持して頂き、他は、金銭出納簿に記載、管理している。カフェや買い物で支払う機会がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を希望される方には、日などに決め掛ける支援をしている。また、手紙も伝えたい内容を話して頂き代わりに書いたりもする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール食堂は、阿蘇五岳を一望でき、季節の移ろいを感じる事が出来る。電気も白熱灯の優しい光で、音にも配慮している。ホーム周辺に季節の花、木がふんだんにあり、中庭に野菜や花を植え、成長を楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の気分に応じ、くつろげる場所としてソファや椅子を配置している。仲の良い人と過ごしたり、一人で寝転んだり、くつろぎの空間を演出している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からのプレゼント物を飾ったり、花を置いたり、写真などを飾っている。また、ご本人の大事な物(仏壇)や家族写真なども飾っている。朝は仏飯のお供えをし、家での習慣を大事にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室とわかる工夫(飾りや矢印)をしたり、手すりや杖、バギー使用を見守りながら自立支援を行っている。		